



国立公文書館	
分類	③ ④
排架番号	3 A
	15
	68-8

68-8

極秘

昭和十八年五月十五日

行政査察使ニ對スル回答事項

300
1000
500

鐵鋼統制會

目 次

- 一、昭和十七年度下期鋼材供給計畫一、八五〇千噸案ニ關スル件
- 二、昭和十七年三月末 在庫減少理由
- 三、鐵鋼統制會ノ入手率良好ナル理由
- 四、京濱、阪神地區間ニ於ケル交錯輸送ノ原因
- 五、原材料ノ陸運轉移ガ日本鐵管ノ作業ニ與ヘタル影響
- 六、水陸荷役施設ノ綜合活用
- 七、トロッコニ對シ執リタル措置
- 八、解滯船狀況並ニ改善ニ達スル措置
- 九、不良屑鐵ノ處理狀況
- 十、石炭需給逼迫ニ伴フ連絡狀況
- 十一、潤滑油不足ニ對スル措置
- 十二、鐵材規格ノ單純化ノ狀況
附 製鋼用煉瓦寸法ノ統一
- 十三、權限委讓及工場管理制度實施ノ効果
- 十四、昭和十七年上期日本鐵管勞務對策上採リタル措置
- 十五、鋼材 在庫數量

昭和十七年度下期鋼材供給計畫二、八五〇〇〇噸案ニ關スル件

昭和十七年十一月下旬ヨリ十二月ニ亘リ當時ノ作戰狀況其他諸狀勢ヨリミテ船腹ノ激減竝ニ陸送轉換不可能ニヨル所謂「乙事態」ノ發生ヲ想定シ企畫院物動計畫擔當官ニテ編成セラレタルモノニシテ當會ニテハ配當計畫ハ右決定ニヨリ實施セルモ生産關係ニ付テハ閣議決定三一〇〇〇〇〇噸案ヲ以テ進行セリ

昭和三十七年三月末在庫減少理由

イ 製鐵業者

昭和三十七年一月、二月、三月各月ノ生産積出、在庫狀況ヲ觀ルニ

(昭和三十七年) 生産 在庫 積出 (内本船輸送)

一月	三五六一六六	四六〇、三九七	二九八、〇六四	一三七、八〇六
二月	三四二九五六	四三三、〇七一	三七二、二八二	一六八、六三三
三月	三九一、四九六	三九〇、四八七	四三三、〇八〇	一七八、五六六

右ノ如ク在庫ノ減少ハ生産ノ減少ニ因ラズ輸送狀況ノ好轉ニ基クモ
モノナルコト明瞭ナリ

然レ共積出ノ活潑化ヲ來シタル原因ニ付更ニ探求スレバ十七年度
ヨリ實施セラレタル鐵鋼需給計畫化ハ諸種ノ影響(次項説明)ヲ
齎シ製造業者ニ對スル需要家又ハ配給業者ノ積出促進工作ヲ看過ス
スルコトヲ得ズ

ロ 配給業者

昭和三十七年一月、二月、三月各月ノ在庫推移左ノ如シ



一月	一二八〇八三
二月	一一七八四二
三月	四二七五一

斯カル急激ナル在庫ノ減少ハ昭和十七年度第一四半期以降實施セラレタル鐵鋼需給ノ計畫化ニヨリ、全年度以前ニ行ハレタル消費額當ハ一部ヲ除キ大部分無效措置ヲ講ジタル結果需要家ヲシテ異常ノ買漁心ヲ惹起セシメ、從來業者ノ倉庫中ニ久シク退藏セラレタル鋼材ノ如キモ寸法鋼質ニ拘ラズ急激ニ需要セラレニ至リ未曾有ノ販賣實績ヲ示スニ至レリ。

三、鐵鋼統制會ノ入手率良好ナル理由

イ、鋼材、配給實績ノ需要部門別調査ハ昭和十七年度ヨリ着手シタルモノニシテ、之カ調査對象トシテハ製造業者、鐵鋼販賣會社及當時三千有餘ニ上ル配給業者ノ各層ニ亘リ從ツテ調査趣旨竝ニ方針ノ徹底ニハ格段ノ努力ヲ要シタル次第ナル處鐵鋼割當證明書ヲ中心トシ實施セル本調査中鐵鋼部門ニ關シテハ、偶々當會名發行證明書中ニハ左ノモノヲ含メリ

イ、半製品扱鋼材用割當證明書

ロ、朝鮮總督府ニ對スル割當ニシテ鐵鋼統制會朝鮮支部發行ノモノ

前者ハ鋼材製造用ノ原料切符ニシテ消費割當ニ對比スベカラザルモノニツキ積出實績ヨリ控除ヲ妥當トシ後者ハ朝鮮總督府ニ對スル消費割當ニ該當シ積出實績ハ總督府欄ニ記載スベキモノニシテ孰レモ當會ヨリ除外スベキモノナルニ拘ラズ之ニ對スル積出高ヲ昭和十七年度第一四半期ニ計上セラレタル結果割當以上ノ積出トナレリ

之カ修正ニ關シ其後努力シタルモ時日ノ經過ニヨリ判然トセサル次第ナリ

ロ、前項ノ特例ヲ除キ他部門ヨリ入手率良好ナルベキ一般理由ハ自家製造鋼材ヲ使用シ得ル結果トス、自家使用ニ付テハ鐵鋼販ヲ經由（薄板、線材、帶鋼）本會ニテノ證印ノ押捺（右以外ノ鋼材）等ノ方法ニ依リ之ガ使用ヲ抑制シ居ルモ自家工場所在ノ鋼材ヲ使用スルモノナレバ運輸關係等ヨリ入手率比較的良好ナル次第ナリ

京濱、阪神地區間ニ於ケル交錯輸送ノ原因

京濱、阪神地區間ニ於ケル鋼材輸送ノ實態ハ之ヲ全体量ヨリ觀ルトキハ交錯輸送ヲナシ居ルガ如ク觀ラル、モ之ヲ品種別、寸法別、鋼質別ニ具體的需給關係ヨリ檢討スレバ其ノ實態ハ大部分交錯輸送ニ非ズ當該地區ニ於ケル鋼材需要ノ内其ノ一部分ガ品種別、寸法別、鋼質別ニ當該地區ノ生産ニ依リ充足不可能ナルコトニ起因スルモノナリ

之ヲ昭和十七年度上半期鋼材輸送実績ニ依リ説明スレバ當該期間ニ於ケル鋼材全体量ヨリ觀タル兩地區間ノ輸送關係ハ

京濱地區ヨリ阪神地區向 四八五一五噸

阪神地區ヨリ京阪地區向 七〇七九八噸

ニシテ更ニ此ノ内容ニ付品種別ニ輸送關係ヲ觀レバ全品種中數量的ニ觀タル交錯關係ヲ呈スル品種ハ

品 種

(積地) (揚地)

京濱地區 | 阪神地區

(積地) (揚地)

阪神地區 | 京濱地區

中形棒鋼

一、七〇五

應 官製鋼、三菱鋼材
六角鋼、半丸鋼
日本鋼管(株)材

一、五八〇

應 神戸製鋼、川崎重工
自動車用鋼

小形棒鋼

四九三三

官製鋼、三菱鋼材
内外製鋼
海軍用ボルトナット
日本鋼管(株)材

一、五七一

日亞^ワ大鐵ナット
八一平鋼、六角、
神戸製鋼
自動車用鋼、鐵道用鋼

厚 板

六七二二

(株)材

一三、〇八三

筒 管

三一、七一五

日本鋼管藥品
主トシテ瓦斯管

五〇九四

主トシテ住友製品
罐用一般用

ニシテ其ノ原因ハ大部分寸法別、鋼質別需給ノ不適合ニ依ルモノナリ

五 原材料ノ陸運轉移ガ日本鋼管ノ作業ニ與ヘタ影響

イ、轉移以前ハ原材料ノ入荷ニ波動アリタル爲荷役ニ對シ勞務ノ需給ニ困難ヲ感シタルモ陸運ハ略々均一ノ入荷アルタメ荷役ノ能率化ニ好影響アリ

ロ、入荷均一化セルタメ生産ノ計畫化ニ好影響ナリ

ハ、陸送ノモノハ機械荷役困難ナル爲勞務者ニ依ル手卸ヲ必要トシ又時間的制限アリ特ニ深夜業ヲナスタメ一人當荷役量低下シ人夫ノ増加ヲ必要トスルニ至レリ

ニ、線路ニヨル輸送量増大セルタメ水津等ノ貨車輸送ニ困難ヲ感ジ居レリ

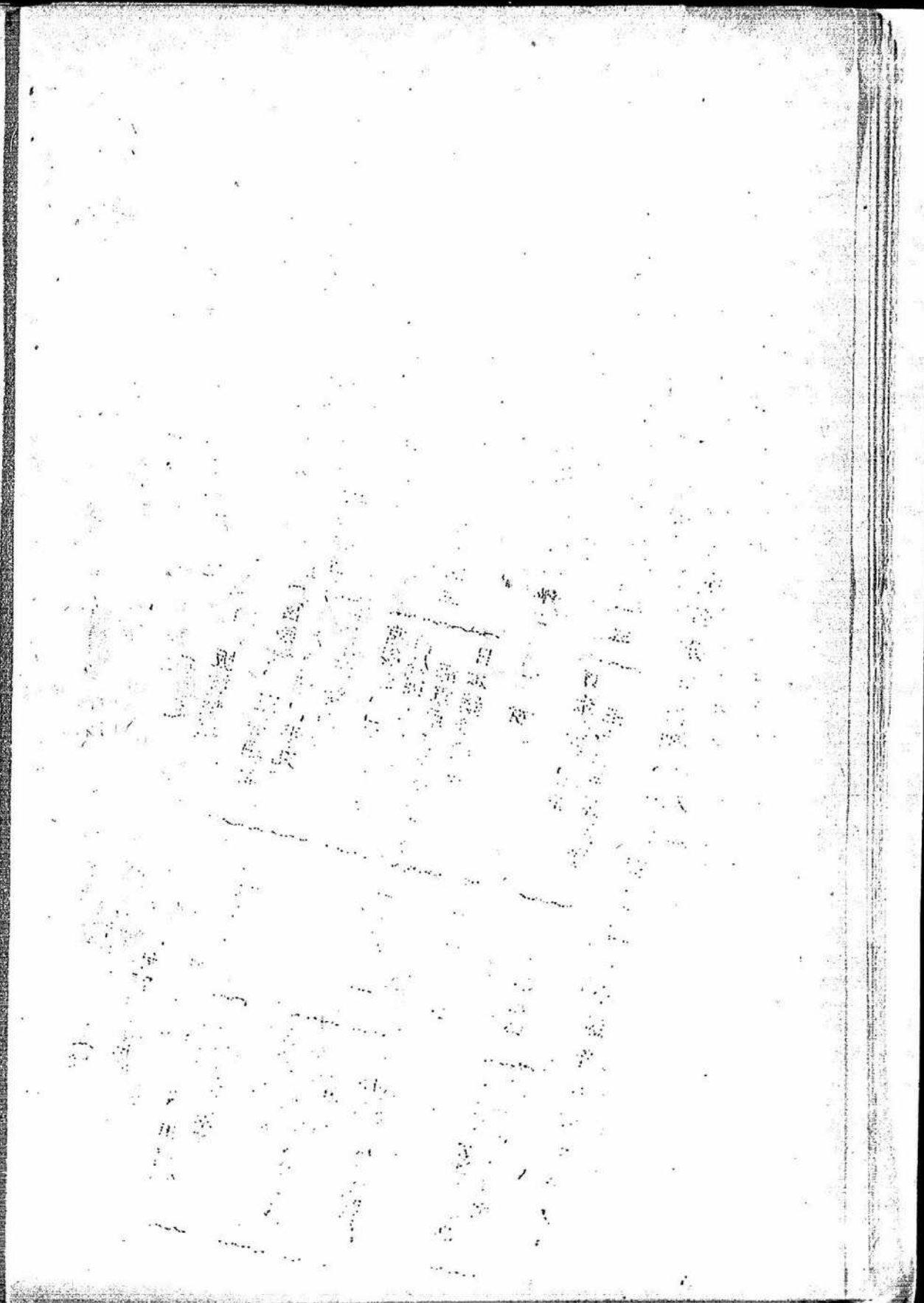
六 水陸荷役施設ノ綜合活用

イ、水陸ノ荷役施設ノ綜合的運營ニ關シテハ特ニ意ヲ用ヒ居レリ

(例示ノ隅田川驛ニ到着セル石炭ヲ舁ニテ川崎地帯ヘノ廻送ノ件鋼管ニ關シテハ實例全然ナク、今后モ斯ル事ハ實施スル意思ナシ)

ロ、舁ノ運航率昂上ニ就テ

十七年八月酷暑、船團ニ依ル同時入港等ノタメ鋼材荷役著シク低下シ本船ヲ滯船セシメタルタメ官民打合ヲ連日開催刻々ニ具體的策ヲ講ジ舁荷役昂上ニ資シタリ



2 問屋及營業倉庫ニ於ケル荷揚ノ良否ハ直ニ解ノ廻轉率ニイテハ本船ノ運航ニモ影響ヲ與ヘルタメ問屋及營業倉庫ノ荷役情況ノ日報ヲ徴シ夫レニヨリ毎日定時打合ヲ爲シ荷役昂上ヲ資セリ

以後休業日、雨天、一時ニ大量入荷ノ虞アル時等ハ隨時關係官民打合會ヲ請催シ居レリ

3 問屋、倉庫ニ於ケル在庫量ノ増加ハ解ヨリノ荷揚ニ影響アルタメ長期在庫調査ヲ九月ヨリ略々毎月爲シ至急引取方督促シ居レリ

4 解不足ニ鑑ミトラツク等ニ依ル荷揚強化ヲ計リ東京府貨物自動車運送事業組合等ト九月ヨリ數回ニ涉リ打合ヲ爲シ配車方依頼ス

ハ、解不足ガ鋼管ノ作業ニ與ヘタル影響

十七年八月解不足ニ依ル本船荷役ニ解ヲ優先使用サレ解直送分ハ第二義的ニ取扱ハルルニ至リタルタメ滞貨ヲ生ジタルモ各方面ノ努力ニ依リ作業ニ支障ヲ與ヘル直前ニ防止シ得タリ

本年三月ヨリ川崎鋼管會社ニ於テ關係官民連絡會ヲ開キ解ノ確保ニ努メタリ

特ニ造船所ノ河岸荷役ニ對シ其ノ能率昂上ヲ依頼シ最近次第ニ良好トナリ居レリ

セトラツクニ對シ執リタル措置

- イ、日本鋼管ノ申出ニ依リ十七年二月神奈川縣廳ニ出頭自家用並ニ同社使用ノ營業トラツクニ對シ月八四五カロソリノガソリンノ特配ヲ受ケ八月迄繼續セリ
- ロ、營業トラツクノ配車ニ關シ(四月一十月)毎月一―二回鐵道省ニ出頭増配方依頼ス向省ハ神奈川縣廳ト連絡増配ヲ斡旋セリ又鋼管會社モ再三縣廳ニ出頭陳情セリ然レ共依然配車數少ク作業ニ困難ヲ感シタリ
- ハ、仍テ自家用車ノ認可ヲ鐵道省ニ依頼スルト同時ニ商工省鐵鋼局ハ全機敏局ト連絡第一四半期一三臺第二、九臺第三、一三臺第四、三〇臺(内一〇臺未入手)計六五臺認可ヲ得タリ
- 即チ上半期ニハ自家用車ノ破損、營業者ノ配車減ノタメ自家用車ノ認可ノミニテハ補充出來サリキ
- ニ、六月初メ日本鋼管向鐵府運搬用トラツクニ關シ鐵道省ト共同調査ヲ爲セリ

自家用車修理

八、解滯船狀況並ニ改善ニ對スル措置

東京港運株式會社ヨリ解船動靜日報ノ提出ヲ求ムルト共ニ鋼材共配所ヲシテ各問屋及營業倉庫ノ河岸ニ於ケル解ノ停泊數、揚切時刻、人夫ノ稼働情況、翌日ノ荷役手配等ヲ毎日報告セシメ解ノ滯泊著シキ處アル河岸向解ヲ他ノ河岸ニ振替ヘル等ノ措置ヲ講ジツ、アリ

九、不良屑鐵ノ處理狀況
イ、昭和十七年度中不良屑鐵處理ニ關スル件（對日本鋼管關係）

4 特別回收屑鐵汚物切斷破碎ノ件

- (1) 切斷着手 昭和十七年十二月一日
- (2) 切斷班 石井組
- (3) 切斷期間 昭和十七年十二月一日ヨリ昭和十八年三月末日
- (4) 切斷數量

鶴見製鐵所	三二七九
川崎製鐵所	六四七
計	三九二六

2 鍋鉄破碎ノ件

- (1) 破碎方法 多イサヤイト破碎ニ依ル
- (2) 破碎班 橋永組

(8) 作業準備着手 昭和十八年二月下旬

(4) 試験破砕着手 昭和十八年三月下旬

(5) 破砕豫定數量 五〇〇〇〇應(扇町製鐵所)

ロ、十八年度實施計畫

ハ、切斷ニ關スル件

昭和十八年四月末現在要切斷屑鐵在庫量左ノ如シ

川崎製鐵所 約 三〇〇〇〇應

鶴見製鐵所 約 三五〇〇〇應

本件ニ關シテハ本年度モ引續キ實施ノ豫定

ニ、破砕ニ關スル件

十八年三月下旬着手ノ多イサマイト破砕目下引續實施中

七、石炭需給逼迫ニ伴フ連絡狀況

イ、北支炭ニ就テ

北支炭ハ一ト多ク用原料炭ナル爲殆ド製鐵用ナルヲ以テ毎旬一配船並ニ貯炭推移表一ヲ作成シ海軍省總務部長、全兵備局第二課、海務院運輸部第二輸送課、商工省金屬局鐵鋼課、船舶運營會支那課ニ夫々提出シアリ
危機ノ發生ノ都度電話其他敏速ナル方法ヲ以テ前記官廳等ト連

[Faint, illegible text, likely bleed-through from the reverse side of the page]

絡シ適時臨機ノ措置ヲ執リツ、アリ
ロ、内地炭ニ就テ

内地炭ニ就テハ用途多方面ナル爲日本石炭株式會社運輸課ニ於
テ配船ヲ管理シ需給ニ關シテハ全社各地支店ト連絡シツ、アリ
從ツテ危機ノ場合ハ會社ト協議ノ上優先配給ヲ受クル方途ヲ講
ジツ、アリ

十一、潤滑油不足ニ對スル措置

イ、潤滑油ノ不足狀況

潤滑油中、石油系潤滑油（マシン油、ギヤ油等）ニ就テハ從來ヨリ府縣單位ニ於テ實績主義的配給ヲナシ居リタルヲ以テ油ノ偏在甚シク且ツ原油ノ供給減ニ伴ヒ其需給圓滑ヲ缺キ（第一表参照）斯ル狀況ニ於テハ鐵鋼生産確保爲シ難ク思推セルヲ以テ十七年十二月二十四日ニ至リ資料提出ノ上當會ニ對スル一元の割當實施ヲ要望セル處昭和十八年度四月分ヨリ機械油指示割當實施要領ニ依リ割當制實施ト相成リ十八年第一、四半期ハ需要量ノ七八%ノ割當（第二表参照）ヲ受ケタルモ充分ナル割當トハ謂ビ得ザルガ他方各會員ニ於テハ潤滑油消費規正強化ニ伴ヒ次ノ如キ對策ニ依リ之ガ苦況ヲ脱セントシテ努力シツ、アリ

- 一、各工場内ニ於ケル割當切符制實施
- 二、廢油回收再生油製造實施
- 三、器具裝置ノ不備ニ依ル消費防止

- (イ) 給油器ノ取換
- (ロ) 多トル容器利用
- (ハ) 自動自限式應用
- (ニ) 油櫃及給油方法ノ改善
- (ホ) 適正油量ノ決定

第一表

昭和十七年十二月二十四日燃料局長宛提出

石油系潤滑油使用狀況調査表

單位立

項目	需要量	受配給實績	比率 %	使用實績	配給實績對使用實績比 %	
					121 %	113
スピンドル油	19,280	14,244	74	17,346		
マシン油	413,742	284,521	69	323,945		113
自動車油	44,239	26,275	59	27,503		104
ダイナモ油	57,026	35,663	63	37,483		105
冷機油	822	790	93	603		73
モーター油	71,390	59,681	83	60,450		101
シリンダー油	113,197	57,254	50	81,423		142
絶縁油	41,431	18,903	45	17,637		93
タービン油	38,126	19,088	50	19,846		103
マリンエンジン油	8,042	3,994	49	4,795		120
内燃機油	47,355	33,297	70	33,094		99
合計	854,658	553,710	64	624,205		112

第二表

昭和十八年度第二四半期一ヶ月平均需要及割當量調

品一 種	需 要 量	割 當 量	%
スピンドル油	21,000	14,546	68%
マシン油	331,200	289,334	88%
モビートル油	57,000	37,473	66%
自動車油	30,500	19,402	64%
シリンダー油	84,300	45,354	53%
内燃機油	34,500	16,504	48%
冷凍機油	180	180	100%
マリンエンジン油	4,200	1,946	46%
ダイナモ油	33,466	33,948	101%
タービン油	40,250	16,504	41%
合 計	602,296	475,191	78%

次ニホツトホツブグリースノ主原料タルアスファルトノ需給モ亦前記ノ如クアスファルト質原油ノ供給減ニテ逼迫セル狀況ニアリシガ昭和十七年四月ニ「アスファルト」ノ一元的割當ノ要望ノ資料ヲ提出シ昭和十七年第一、四半期ヨリ割當ヲ受ケル事トナリ、其ノ実績ニ示ス第三表ノ如シ

第三表 昭和十七年度アスファルト期別需要割當入手狀況調表

期別	需要量	割當量	割當量ノ 需要量ニ 對スル率	入手量	入手量ノ 割當量 ニ對スル 率
第一、四半期	五四九、七一六	三五〇、〇〇〇	五三%	三五〇、〇〇〇	一〇〇%
第二、四半期	四九六、〇六〇	三七〇、五九〇	七四%	三七〇、五九〇	一〇〇%
第三、四半期	三六四、二五一	三六四、二五一	一〇〇%	三六四、二五一	一〇〇%
第四、四半期	三九五、三五六	二八〇、〇〇〇	七〇%	一七六、四〇〇	六三%
合計	一、八〇五、三八三	一、三六四、八四一	七〇%	一、二六一、二四一	九三%

第四表 昭和十七年度ニ於ケル斡旋事項

年月日	相手官廳	要望先	要望事項	効果
昭和十七年四月十六日	商工省鐵鋼局長宛	日本製鐵	所要機械油増配斡旋願ノ件	不明
十七年四月二十八日	全右	全右	多ーピン油増配ノ件	全
十七年五月十八日	全右	全右	機械油増配ノ件	全
十七年六月六日	農林省資材部長	鐵鋼統制會	鋳力板製造用パーム油割當申請	全
十七年七月十日	全右	全右	全右	全
十七年十二月	福島縣知事	品川白煉瓦	諸油増配申請	全
〃	大阪府知事	大同製鋼	擴充工事用油類増配ノ件	全
十八年一月十三日	燃料局長官	吾嬬製鋼	マシン油増配ノ件	全

八

ロ、昭和十七年度執リタル潤滑油節約ニ關スル措置

各會員作業所ヨリ毎月潤滑油消費量ノ使用実績ヲ提出セシム

昭和十八年度 全 上

2 十八年度ハ積極的ニ潤滑適正油ノ適正消費ヲ指導スル爲メ五月

一日及五日關東及關西ニテ潤滑油技術部會ヲ開催シ機械潤滑法

ニ對スル啓蒙的講演及潤滑油消費規正ニ著シキ実績アル會員作

業所ノ實狀發表ヲ行ヒ、潤滑油ニ對スル認識ヲ深メ一方五月十

五日迄ニ各會員作業所別ニ潤滑油ニ關スル委員會ヲ結成セシメ

當會ト連絡シテ將來ニ涉リ潤滑油ノ消費ヲ適正ナシシムベキ方

針ノ下ニ進ミツ、アリ

ハ、昭和十七年度合成樹脂ニ對スル措置

合成樹脂ハ之ヲ壓延口ノ軸受トシテ使用スルトキ摩擦係數小ナル爲メニ抗少ナク電力ノ消費ヲ非常ニ節約ナシ得（節約ニ〇一七五%）然モ減摩劑トシテ水ヲ使用シ潤滑油ヲ要セス其他使用壽命長キ爲メ高能率ヲ發揮シ潤滑劑ヲ使用セザルニヨリ周圍ノ汚損ヲ避ケ、其ノ組替ニモ輕キ爲メ砲金軸受ノ場合ヨリ少人數ニテ足り且ツ注油手不要等一石四、五鳥ニ餘ルナリ、從テ合成樹脂軸受ノ使用ハ急務中ノ急務ニ屬ス然ルニ軸受ノ寸法ニ一定ノ規格ナキ爲メニ現在多種多樣ノ軸受ヲ製作シ爲メニ金型モ多種多樣ヲ要セリ、於茲合成樹脂軸受統一規格ノ制定ヲ急務トス、依テ當會ハ産業機械統制會ト共同シテ製鐵機械技術委員會ニ合成樹脂軸受小委員會ヲ組織シ合成樹脂軸受標準制定ヲナス事トシ昭和十七年十一月十三日、十四日（日鐵廣畑製鐵所會議室）及全十八年四月二十八日（産業機械統制會々議室）會議ヲ開催、兩回ニ渉ル審議ノ結果條鋼口ノ用合成樹脂軸受ノ統一規格案ヲ作製セリ。（十三種）引續キ厚板用ノモノモ統一案研究中ナリ

昭和十八年度

全

上

2 本年成ニ於テハ電力ノ節約潤滑油ノ節約ノ觀點ヨリ壓延ロール用軸受ニシテ合成樹脂ニ轉換シ得ルモノハ極力之ニ轉換セシムベク各會員作業所ニ使用獎勵並指導ヲナシツツアリ

又他方合成樹脂原料タル「クレゾール」ハ軍需用重用資材ナルヲ以テ之ニ代換シ得ベキ高沸點「タール」酸ノ増産ヲ計ル爲メ日鐵八幡及輪西兩製鐵所當該課ト連絡シ蒸溜法ノ變更ニヨル高沸點物ノ回收及「キシレノール」使用ニ關シ試験ヲ行フト共ニ日本合成樹脂統制會社技術委員會ニ對シ高沸點「タール」酸ヨリノ合成樹脂製造ノ研究及其ノ軸受使用ニ關スル研究ヲ督勵中ナリ

十三 鋼材規格ノ單純化ノ狀況

イ、抗張力及伸ノ標準規格ヲ緩和シタルモノ

(1) 一般構造用壓延鋼材

(2) 罐用壓延鋼材

ロ、寸法公差並ニ試験及検査規格ヲ緩和シタルモノ

(1) 圓罐用繼目無鋼管

(2) 機關車罐用繼目無鋼管

(3) 一般用繼目無鋼管

ハ、寸法ノ簡單化ヲ計リタルモノ

(1) 鐵用繼目無鋼管ノ寸法

(2) 一般用熱間仕上繼目無鋼管ノ寸法

(3) 冷間仕上繼目無鋼管ノ寸法

ニ、成分及抗張力並寸法公差ノ緩和シタルモノ

(1) 炭素鋼輕軌條

ホ、鉄用鋼材ニ轉爐鋼ヲ認ム

(1) 鉄用壓延鋼材

罐用以外ハ註文者ノ承認ナク共轉爐鋼ヲ認メP・S・及抗張力並伸ノ規格緩和

ハ、寸法及重量ノ公差規格ヲ緩和シタルモノ

(1) 薄鋼板及中鋼板ノ寸法及重量

(2) " " "ノ公差

(3) 厚鋼板

製鋼用煉瓦寸法統一委員會決定分

イ、製鋼用並型煉瓦、蓄熱室格子用煉瓦
統一寸法表示様式並ニ類別記號

ロ、三五〇瓦以下二本立鑄型用造塊煉瓦

ハ、ノズル、ノズル受、ストツバ、スリーブ、鍋底煉瓦規格及寸法
(鍋煉瓦未定)

ニ、平爐用熔解室天井煉瓦、全迫受煉瓦

十三、權限委讓及工場管理制度實施ノ效果

イ、權限委讓

行政官廳職權委讓令及同施行規則ノ施行ニ依リ鑄鋼統制會ニ
委讓セラレタル職權關係法令左ノ如シ

製鐵事業法、全施行令、全施行規則

製鐵設備制限規則

製鐵用輸入原料配給等統制令

鑄屑配給統制規則

鑄鋼統制規則

第一バイ卜配給統制規則

會社經理統制令（經由）

2 權限委讓ニ依ル效果

鑄鋼統制會ニ於テ職權委讓ヲ受ケタルコトニ依ル效果ニ付テ
ハ委讓後未ダ日淺クシテ詳述シ得ザルモ過去三ヶ月半ノ經驗
ニ徴スルニ

(一) 統制會ニ於テ前記諸法令ニ基ク大部分ノ職權ヲ行使スルコ

ト、ナリタル結果認許可申請事項ノ處理ニ當リ將來ノ製
生産擴充並ニ富面ノ生産増強實施ノ兩面ヨリ綜合的考察ヲ
加ヘ其ノ可否決定ノ適正ヲ期シ得ルニ至リタルコト
(二)認許可ノ處理ガ一般的ニ迅速ニ行ハレ、就中富面ノ生産増
強上緊急ヲ要スル認許可事項ノ處理ノ迅速適正ヲ期シ得ル
ニ至リタルコト

(三)右認許可事項ノ處理ヲ適シテ統制會ノ綜合的統制運營ノ運
行ニ資スル所大ナルコト
等ハ效果ノ顯著ナルモノト認メラル

3 自二月一日至四月末日發讓職權關係處理狀況

昭和十八年（自二月
至四月）

行政官廳職權委讓令ニ基ク申請書處理狀況表

鐵鋼統制會

一、製鐵事業法

條文別	受付件數	届受理數	進達數	連絡會議協議數	許可數	却下數	五月へ繰越數	備考
新設許可	一七			一	一	一	一五	
完成開始時期延長許可	四二				三四		八	
増設及變更許可	五五		一	六	一		五四	
完成及開始届	一六		九				七	
輸入認可	二				二		〇	
合併及解散認可	五						五	
造船計獎勵金	一七二						一七二	
譲渡禁止、休止許可	一一			一	四		八	
事業年報ノ受理	一二六	一二六					〇	
譲渡終了及休止届	四	四					〇	
考課狀ノ受理	四二	四二					〇	
定款變更等ノ受理	一八	一八					〇	

注 一、進達數ハ商工省へノ承認願及稅務署へノ通報件數ヲ示ス
 二、連絡會議協議數ハ陸、海軍商工三省及企畫院連絡會議ニ協議済數ヲ示ス
 三、造船材獎勵金交付申請書ハ目下本會工場駐在員ニ於テ照合手配中ナリ

三 製鐵設備制限規則

受付件數	進達數	照合數	許可數	却下數	五月へ繰越數	備考
六		七	一		五	

三 製鐵用輸入原料配給等統制令

受付件數	進達數	許可數	處理平均日數	五月へ繰越數	備考
一四	六	一二	(三月)五日 (四月)九日	二	

四 會社經理統制令

受付件數	進達數	處理平均日數	備考
即日處理ノモノ 三日處理ノモノ	一二 七五	一二 七五	一日 三日

註 即日處理ノモノトハ會社經理統制令施行規則第四十三條ノ二ノイ
ニ補ナルモノニシテ其ノ他ハ三日處理ノモノナリ

五 鐵屑配給統制規則

受付件數	照會數	許可數	却下數	處理平均日數	五月へ繰越數	備考
五四	一	四二	二	(二月) 七日 (三月) 十二日 (四月) 十五日	一一	

六 鐵鋼統制規則

受付件數	照會數	許可數	却下數	處理平均日數	五月へ繰越數	備考
一一〇	五	一〇五		(三月) 七日 (三月) 十二日 (四月) 十日	五	

七 物Iパイド給統制規則

受付件數	照會數	許可數	却下數	處理平均日數	五月へ繰越數	備考
一		一		一	〇	

H. 工場管理制度ノ實施

本制度モ實施以來未ダ日淺シテ之ガ效果ニ付詳述シ得ザルモ主要ノモノ擧グレバ左ノ如シ

1 廢延計整委員會ニ於テ該會ノ生産額當ニ基ク富該管理工場ノ寸法別廢延計整ヲ樹立シ計整生産ノ適正ヲ期シ得ル体制ヲ整へ得タルコト

2 當該工場ノ生産ニ期待スル軍、官、民ノ需要量ヲ明カニシ得三者ノ打合ニ依リ緩急度ニ應ジ生産順位ヲ計整シ得ルコト

3 需要量ニ相應スル寸法別生産ヲ阻害スベキ隘路又ハ事態ノ早期發見ヲ可能ナラシメ延イテハ注文品ノ他工場振替等ノ措置ヲ講ジ得ルコト

4 管理官（工務官）ト本會駐在員ノ協力ニ依リ當該工場ニ於ケル所要原料、資材勞務等ノ確保斡旋其ノ他生産條件充足ニ付キ迅速ニ措置講ジ得ルト共ニ統會本部ニ於テモ駐在員ヨリノ連絡ヲ通ジ一層正確ナル現場狀況把握ニ基ク諸般ノ施策ヲ爲シ得ルコト

十四 昭和十七年度上期日本鋼管勞務對策上探リタル措置

(一) 徵用問題ノ擡頭並前後措置

日本鋼管ノ十七年三月卅一日ニ於ケル勞務者數及第一期割當數ハ左ノ通りナリ

工場名	現在數	割當數
川崎	六四七九	六五六
扇町	三六九八	二二四
鶴見	三九〇一	一一二
計	一三〇七八	九九二

然ルニ第六四半期ノ内地工員ノ募集成績ハ思ハツカラズ四〇%ヲ充足シタルニ過ギズ六月末ニ於テハ全期中ノ純増加ヲ加ヘテ一三三三九人トナレリ

月	雇入	解雇	月末現在數
四月	七六九	二七八	一三五六九
五月	九六五	二八七	一三三二四七

六月 三四〇 二四八 一三三三九

計 二〇七四 八一三

而モ今後生産ノ重要性ニ鑑ミ、多數ノ要員ヲ必要トスルニ不拘一方勞力不足ニヨリ相當ノ生産減ヲ見タルニヨリ七月初ニ至リ同社ヨリ關係官廳ニ徵用ノ要望書ヲ提出アリタル趣、關係官廳ヨリ連絡アリ仍而、七月十一日統制會ニ於テ陸軍省、商工省、厚生省、日本鋼管關係者ト協議ヲナシ徵用ノ當否ニ付調査ヲナシ再度打合ナス事ニシタリ

日本鋼管ヨリ七月十四日ニ至リ統制會長宛ヲ以テ、徵用促進方ノ正式依頼アリタリ、七月十六日理事會ヲ開キ右徵用ニ付斡旋盡力スベキ旨ヲ決定シ同日直チニ商工省係官、鋼管ノ當事者參集ノ上、當路ニ提出スベキ資料作成ヲ打合セタリ、翌七月十七日資料ノ完成ヲ俟チ、鋼管當事者ト當會職員商工省ニ出頭説明ノ上尙檢討ヲ加ヘルコトニセリ、翌七月十八日之等ノ資料ヲ整へ統制會長ヨリ七月二〇日一七鐵統生發第一二八六號ヲ以テ商

工大臣、厚生大臣、陸軍大臣、海軍大臣ニ對シ徵用實現方ニ付實現方ニ關スル意見ヲ具申セリ、其ノ後ハ商工省ニ於テハ現場ノ勞務擔當官ヲシテ調査ヲ命ゼラレ一方鋼管ヲシテ職場別人員等ノ調査ヲ命ゼラレ八月三日ニ至リ漸ク之等調査終了セリ
統制會ニ於テ其ノ間陸海軍省ト連絡シ數回接衝ヲ重ネタルガ、關係廳ニ於テハ人夫徵用ヲ恐レラル、ニ付適當ナラズト言フ意見モアリ陸海軍、厚生省ニ於テハ且其ノ性質ニ鑑ミ軍作業廳管理工場ノミニ適用サル、ニ付指定工場トナス方法アルモ此ノ指定ハ當時日本製鐵會社法ニ依ル特別法人タル日本製鐵會社ノミニ適用シタルノミニシテ、其ノ他ノ工場ニ付指定スルコトニ付テハ困難ナリト厚生省ノ意向ニテ之等ノ交渉ノ爲約一ヶ月ノ日子ヲ經過シタリ
尙其ノ間統制會ハ厚生省ニ連絡シ日本鋼管ノ勞務充足ニ付神奈川縣廳及同縣下ノ各指導所ニ對シ充足ニ付テノ特別ノ努力ヲ懇請スル外半島勞務者ノ移入促進ニ付テハ一層努力スル様海軍ヨ

リノ注意モアリタル故同社ニ對シテ三〇〇人ノ半島勞務者移入
計畫ヲ樹テ、厚生省ニ依頼スル處アリタリ
乍併半島勞務者ノ移入ニハ日數ヲ要スルニ不拘同社ノ勞務不足
ハ緊急ニ充足スル必要アル故厚生省ニテハ八月十日關係者ノ會
合ヲ開キ徵用問題ハ暫ク之ヲ延期シ募集ノ措置ヲ講ズルコトニ
決定セリ

(二) 特別措置ノ經過

八月廿二日ニ至リ川崎職業指導所ニ於テ打合會アリ
 厚生省、商工省、海軍省、神奈川縣當局、關係指導所長、鋼管
 當事者、各工場關係、統制會列席ノ上同社ノ勞務充足ニ付テハ
 特別充足ヲナスコト、決定セラレタリ
 ソノ内譯左ノ如シ

	八月廿日ヨ リ九月末迄	十月中	十一月中	十二月中	計
川崎	五五四	三五〇	四〇〇	二三七	一、五四一
扇町	四〇〇	一五〇	二二	半島人移 入豫定	五七二
鶴見	四〇〇	四〇〇	二八七	半島人移 入豫定三〇〇	一、三八七
計	一、三五四	九〇〇	七〇九	五三七	三、五〇〇

依テ統制會ハ商工省ノ指示ニ基キ右割當數ノ特別充足ニ付(1)九

月十四日附一七鐵統生發第一七六一號ヲ以テ割當府縣宛事情具陳ノ依頼狀ヲ發スル（第二期ニ於ケル主要品種割當工場ノ充足分ノ供出依頼ト同時ニ）ト共ニ

(2) 工場側ト連絡ヲ採リ統制會職員ヲシテ供出割當先府縣主要職業指導所ヲ網羅的ニ派遣シ（三府二九縣、八〇指導所、延人員一四四人）特別充足促進ノ措置ニ付盡カセリ

尙之ガ實行狀況監視ノ要アリ商工省統制會ニ於テハ毎日勞務充足狀況ノ日報ヲ提出セシメ之ガ結果ヲ嚴重監視セリ
ソノ結果充足狀況左ノ通りトナレリ

八月廿日ヨリ九月中充足數

川崎	二四一
扇町	二一八
鶴見	二五一
計	七一〇

(三)下期ニ於ケル勞務計畫並ニ其ノ割當及充足
 イ、一般青壯年下期申請數、割當數
 下期ニ於ケル割當數左ノ如シ

工場名	割當
川崎	一、二二七
扇町	五五〇
鶴見	一、一〇五
計	二、八八二

ロ、緊急要員閣議決定前ノ措置
 上期割當數充足ニ關シテハ厚生省ニ於テ割當府縣ニ對シ優先供
 出ヲ命ジタルニ依リテ當會ニ於テモ各係員ヲ關係府縣ニ派シ協
 カセリ

然シテ閣議決定ニ至ル十一月迄ニ於ケル充足數左ノ如シ

作業所	計
川崎	二一〇
扇町	一四五
鶴見	一三七
計	四九二

(四) 緊急充足期間ノ設定

限定品種生産ノ爲九月以降充足ヲ努カシツツアリシ處八月以來進行シツツアリシ計畫農働勞務對策ノ十一月二十七日ノ閣議ニ於テ決定セラレタル爲當時進行中ノ勞務充足ニ對シテ修正ヲ加ヘテ別ニ割當ヲ受クルコトトナリ緊急要員充足期間ヲ設定セラレ一月以降之ガ充足ニ邁進スルコトトナリタリ

閣議決定ニ基ク三作業所ノ割當並充足狀況左ノ如シ

作業所	七月充足數		十二月充足數		半島		計	充足率
	割當	充足	割當	充足	割當	充足		
川崎	110	110	1017	928			1137	93%
扇町	145	145	405	398			550	99
鶴見	137	137	568	583			1105	101
計	392	392	1390	1309	400	400	1883	97

此ノ結果昭和十八年三月末ニ於テハ左ノ如キ現在勞務者數トナリタリ

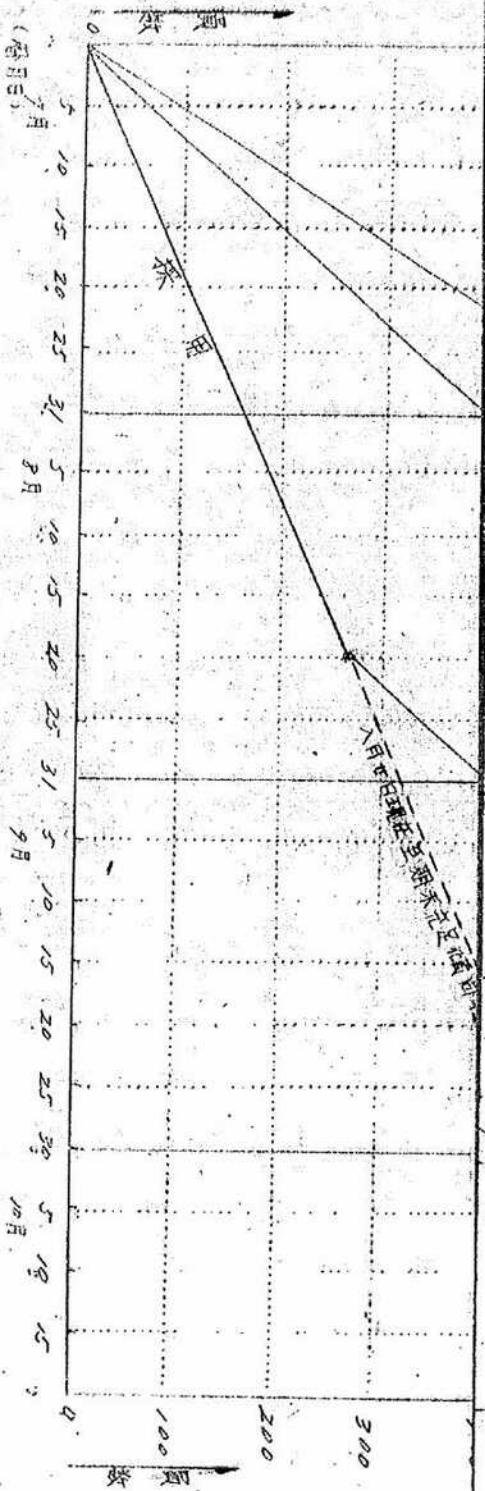
川崎	八、一三八
扇町	四、三二〇
鶴見	三、六四四
計	一六、一〇二

依而徵用計畫當時ノ會社申立ニ係ル定員一八、六八三名（人夫ヲ含ム）ニ對シテ現在數ヨリ見レバ常備工員ノミニテ八、六%ヲ占ム

日本鋼管鐵鋼部門工員採用狀況(昭和十七年度第二期)

九月中採用者赴任狀況

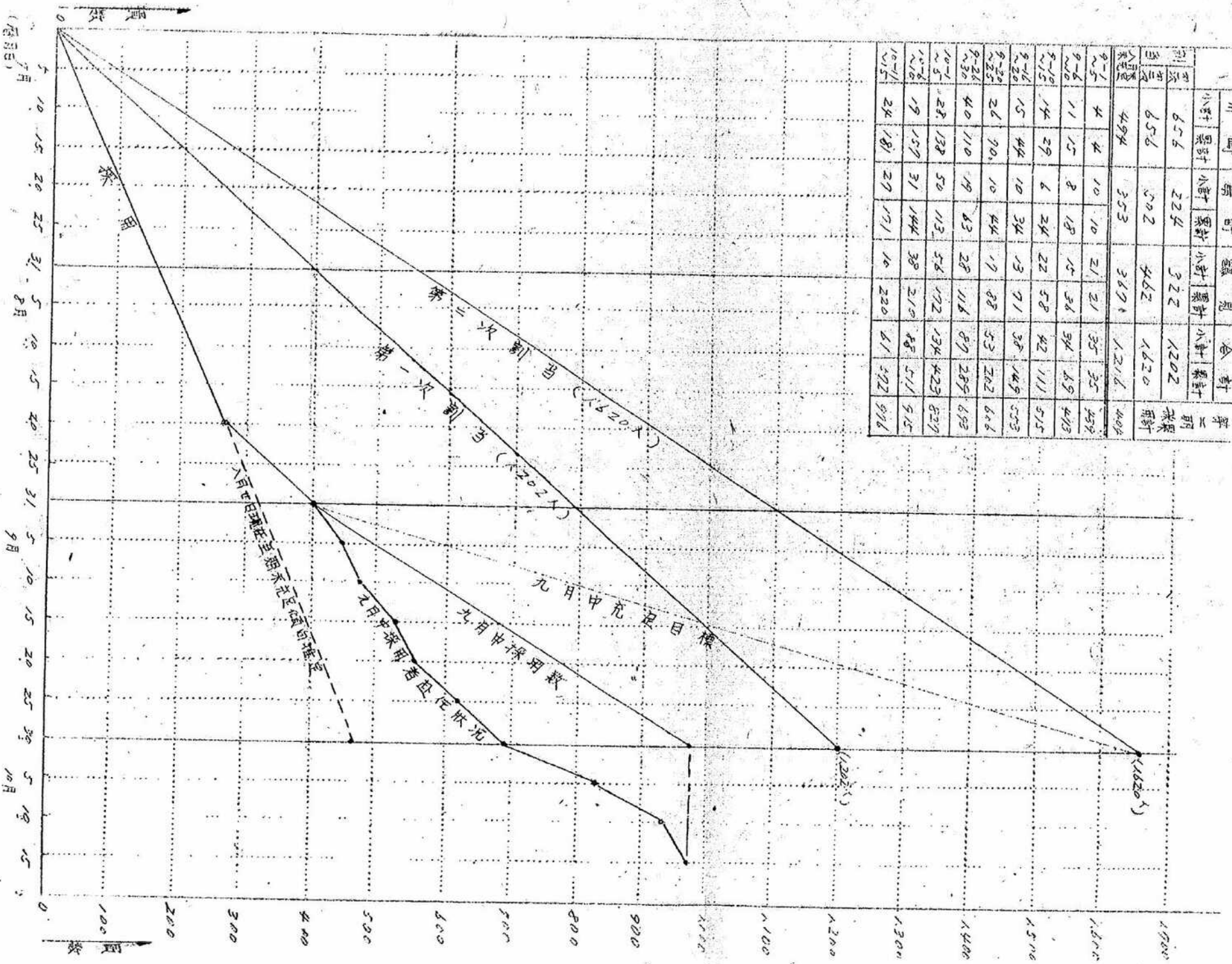
川崎	藤岡	鐵冠	合計		第二期 採用 合計
			小計	累計	
656	224	322	1202	1202	409
494	592	462	1620	1620	
	353	367	1216	1216	



日本鋼管鐵鋼部内工員採用狀況(昭和十七年第二期)

九月中採用者赴任狀況

川崎 桑町 龜見 合計	小計		累計		第二期 採用累計
	小計	累計	小計	累計	
656	224	322	1202	1620	404
494	353	367	1216	1620	404
9-1	4	10	21	21	35
9-6	11	15	18	15	34
9-10	14	29	24	22	58
9-16	15	44	34	13	71
9-20	26	70	44	19	88
9-25	40	110	63	28	116
9-30	28	138	50	56	172
10-1	19	157	31	144	38
10-6	24	181	27	171	10
10-11					220
10-15					61
合計	494	353	367	1216	404



十五 鋼材在庫數量

各製鐵工場、並ニ日本鋼管ニ於ケル十七年度鋼材在庫數量及全製鐵工場品種別在庫數量別表ノ如シ

※ 一 力 一 壓 延 鋼 材 在 庫 推 移

18~5~13

(附 配 給 業 者 在 庫)

鐵 鋼 統 制 會 生 產 部

月 別 一 力 一			17			18			
			3	6	9	12	1	2	3
日		鐵	287,606	322,154	305,626	329,346	362,497	385,079	336,730
中	本	鋼	47,537	69,049	66,627	64,047	68,772	72,006	67,164
川	山	製	4,400	8,949	7,373	8,949	10,345	8,084	10,460
任	崎	重	10,137	8,390	8,935	9,035	10,579	9,949	8,963
大	友	金	4,768	7,574	5,761	7,574	7,504	7,916	9,146
大	同	製	265	4,650	4,370	2,071	1,673	1,569	2,123
內	阪	製	571	4,137	2,233	1,229	730	746	
日	外	製	453	1,806	2,131	2,174	2,473	2,302	2,427
大	本 特 殊	鋼	987	1,167	805	1,167	1,163	2,169	
日	谷 重 工	業	442	247	50	50	50	50	50
小	本	伸	695	1,240	638	322	1,051	1,001	
尼	倉	製	787	1,024	282	836	1,290	2,449	4,258
神	崎	製	3,483	4,934	4,623	3,338	10,095	6,396	5,408
大	戶	製	939	3,056	2,762	2,599	4,564	3,026	3,893
德	和	製	1,412	4,878	4,604	3,725	4,500	6,274	4,523
淀	山	鐵	6,345	8,129	7,749	7,195	8,576	8,442	8,471
高	川	製	1,997	1,317		1,676	3,099	4,150	
日	砂	鐵	529	444	493	546	540	536	455
音	亞	製	2,187	3,414	5,056	2,698	4,509	3,751	
宮	端	製	1,592	3,377	1,909	2,684	2,436	2,578	1,917
三	製	鋼	2,294	4,469	3,208	1,594	4,641	4,460	4,183
東	菱	鋼	4,479	3,125	2,928	3,491	3,525	3,459	3,003
東	京 シ ヤ	一	732	944	1,089	2,135	2,289	1,977	1,407
東	洋	鋼	3,472	1,755	1,601	1,980	1,762	1,044	1,509
東	洋	製	234		525	203	376	215	328
東	洋	鋼	243	498	841	919	1,105	1,298	1,534
東	京 製	鐵 (千 住)	448	2,327	3,942	3,645	3,711	3,647	4,919
東	京 製	鐵 (鶴 見)	1,004	912	910	1,183	1,270	1,936	1,600
東	京 芝 浦	足 立 製	120	120					
電	線	管 統 制							1,821
東	京	鋼	272						
合	計		393,487	474,086	447,141	471,411	525,125	546,509	486,322
配	給 業 者 在 庫		42,751	130,697	171,697	207,107	176,458	164,721	145,012

裏 面 白 紙

アサヒ製鋼株式会社
Asahi Steel Works Ltd.
http://www.asahi-steel.com

全 × 一 力 一 在 庫 / 推 移

18~5~14
鐵鋼統制會生產部配給課

品	月 種	17				18		
		3月	6月	9月	12月	1月	2月	3月
大形	軌條及繼目板	16,309	18,878	18,261	22,743	24,021	30,141	19,899
	型鋼	34,740	36,214	35,542	39,166	40,867	40,708	32,944
	矢板	2,110	1,057	2,136	497	497	910	526
	棒鋼	17,092	21,093	19,283	13,517	21,583	13,658	18,074
	軌條及繼目板	4,915	10,056	12,587	8,650	16,646	13,957	10,715
	型鋼	28,057	39,523	44,706	36,051	45,120	46,042	34,310
	棒鋼	48,192	38,388	33,977	43,622	37,939	32,668	35,038
	繼目板	365	674	48	815	1,089	660	642
	形鋼	3,562	6,508	5,24	5,341	10,346	7,164	7,111
	形棒	50,252	70,214	64,677	66,567	90,347	83,142	80,368
延	厚板	93,487	105,315	107,577	110,356	112,727	149,819	143,266
	薄板	39,086	57,053	40,603	38,438	38,092	37,057	39,080
	ブリキ	12,527	9,432	5,683	6,410	8,031	7,367	8,529
	珪素鋼板	1,924	1,943	2,362	2,796	2,515	3,623	3,563
鋼	美裝鋼板	2,062	2,511	2,333	1,165	816	1,638	2,818
	線普通線材	768	1,668	2,271	1,963	2,938	5,625	7,173
	材特殊線材	1,094	3,649	3,397	3,436	2,160	3,559	4,730
	筒管	28,719	41,022	36,442	37,616	40,768	40,366	43,796
材	外輪	1,711	3,418	2,529	1,667	2,215	2,674	2,355
	帶鋼	2,507	4,287	3,685	4,346	5,344	4,625	6,327
	サソコ、リムリングバー	834	413	692	1,265	923	1,043	1,068
		174	773	753	394	323	303	305
合 計	390,487	474,089	447,141	446,821	505,307	526,749	502,642	



日本鋼管在庫高 (昭和17年3月~18年3月)

18~5~14
鐵鋼統制會生產部配給課

品	種	月別	17				18			
			3月	6月	9月	12月	1月	2月	3月	
歴 延 鋼 材	大形	型鋼	844	957	1,243	339	682	1,227	378	
	棒鋼	112	807	320	392	290	716	718		
	中形	軌條及繼目板	454	834	722	15	15	15	15	
		型鋼	3,913	4,584	8,040	3,853	3,860	4,690	3,655	
	棒鋼	435	1,217	1,488	588	476	1,248	572		
	小形	繼目板	37	21	7	64	57	77	32	
		棒鋼	1,711	6,099	4,960	16,954	24,423	5,104	5,183	
	厚板	9,692	14,700	11,780	7,510	7,670	22,547	23,594		
	薄板	7,246	7,138	7,804			6,864	6,008		
	美裝鋼板	181	361	569	655	630	626	697		
筒管	22,738	32,201	29,534	30,575	30,595	28,839	26,253			
		174	130	156	102	74	53	59		
合計		47,537	69,049	68,627	64,047	68,772	72,006	67,164		

裏面白紙

